

雨のなか第3次行動

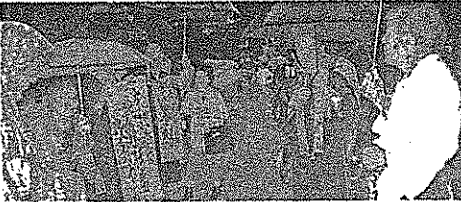
「信仰から絶対許せない」

宗教者

宗教・宗派を超えた宗教者が呼びかけ人となつてつづいた「もう黙ってはいられない！ 戦争法案に反対する宗教者の会」は、時折強く雨が降るなか、衆院第2議員会館前で第3次の行動をしました。

呼びかけ人代表の山崎龍明氏（浄土真宗本願寺派法善寺前住職・仏教文イムス社長）はあいさつで、9日夜の日比谷野外音楽堂に、豪雨のなか500人が集い、戦争法案に反対する宗教者の会（全視協・田中章治代表理事）が6月下旬から呼びかけたもの。8月末までに500人をめざし、賛同者は624人になりました。

全視協の山城完治代表理事は「憲法は、私たち視覚者が壊され、命の危険にさらされます」と述べ、戦争法案の廃案を訴えています。



戦争法案の廃案に断固反対する声をあげる「戦争法案に反対する宗教者の会」の人たち。マイクで訴えるのは山崎龍明氏。10日夜、衆院第2議員会館前で野党議員に提出したも

アピールに社長など603人連名

出版関係

出版関係者603人が賛同するアピール「安倍政権の国会運営と『安全保障関連法案』の強行採決に反対する。」が発表されました。

よひかけ人は、講談社顧問の竹永介氏、小学館最高顧問の白井勝也氏、元東洋経済新報社社長の浅野純次氏、産心社社長の酒井京

講談社顧問・小学館最高顧問ら

子氏ら出版関係者有志、岩波書店、偕成社、岩崎書店の各社長らも名を連ねています。

アピールは、一時の首相や政治勢力の思惑で勝手な憲法解釈をして「戦争をする国」に変えることは絶対に許されないと強調。言論統制で表現活動が規制された歴史にもふれ、民主主義と平和につながるすべてを否定する安保法案反対の運動との連帯を訴えています。

憲法破壊、民主主義破壊の戦争法案は絶対に許せない。国会審議のヤマ場を迎えた10日、宗教者や国際協力活動をおこなうNGO有志、出版人、ママの会などが「もう黙ってはいられない」と、多彩な行動にとりくみました。

戦争法案廃案必ず 多彩に声あげ



「戦争法案は廃案に」と訴えるメッセージ冊子を提出する「ママの会」の人たち=10日、自民党本部前

ママの会

「安全保障関連法案に反対するママの会」は、戦争法案の廃案を求める約2万人のママたちのメッセージ冊子を自民党本部に提出しました。

雨のなか、子どもを含む約20人が参加。館内での提出はかなわず、門の外で自民党職員に手渡ししました。

冊子は8月27日に開いた同会主催の国会内集いで野党議員に提出したも

自民に2万人メッセージ 「私たちはあきらめない」

「誰の子どももころさせない」「子どもたちを戦場に送らない」という思いがこぼれ出ています。

同会の西郷南海子さんは「集会に参加するのは、安倍首相にたいしては冊子を受け取る担当者さえいないといわれました。そんななか、今日やっとママたちの思いを提出できました。集団的自衛権がなぜ必要なのか、納得できる説明はまったくありません。ママたちはあきらめません」と話していました。

アピール賛同600人超

視覚障害者

「戦争は人権を奪い、民主主義を排除し、殺す」として障害者の存在を否定する」として戦争法案廃案を求める一視覚

国際共同声明331団体

NGO

国際協力や交流活動を行う国際非政府組織（NGO）の有志をつくる「NGO非戦ネット」は、国会内で記者会見し「安全保障法制に反対するNGO国際共同声明」を発表しました。声明に賛同するNGOは、日本国内で103団体、海外で22

8団体にのほりました。声明を眺み上げた日本国際ボランティアセンター

まで500人を超え、賛同者は624人になりました。

全視協の山城完治代表理事は「憲法は、私たち視覚者が壊され、命の危険にさらされます」と述べ、戦争法案の廃案を訴えています。

の谷山博史代表理事は「平和憲法を持つ日本に、軍事化・暴力化の世界に加わってほしくない」という国際市民社会からの願いです」と訴え、ヒューストン・ナウ事務局長の伊藤和子弁護士は「アジアや中東の紛争地域で活動するNGOが多岐にわたる中、安全保障は軍事力ではなく、他の選択はないのか」と問いたいと話しました。